

薬剤によるナシ果実の汚れ程度

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

薬剤散布による果実の薬斑汚れは、その程度によって秀率の低下要因となることがある。そのため、散布者は薬剤の汚れの程度を把握しておくことが望ましいが、それに関する知見は少ない。そこで、果実における薬斑汚れの程度を検討した。

(2) 情報・成果の要約

収穫前の薬剤散布は、評価Aの剤を用いることで果実の薬斑汚れが軽減できる。

2 試験成果の概要

(1) 収穫直前の‘新甘泉’に薬剤を散布し、その翌日に薬斑汚れ程度を調査した。

(2) 汚れ程度が軽度な順にA、B、Cと分類して評価を行った結果、各種薬剤は表1のとおり分類された。

表1 薬斑汚れ程度の評価(2023年)

区分	種類名または試験区名(商品名)	希釈倍数 (倍)	薬斑汚れ ^{a)} の 平均値 ^{b)}	評価 ^{c)}
殺菌剤	アゾキシストロビン水和剤(アミスター10フロアブル)	1,500	0.3	A
	イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤(バルコートフロアブル)	1,500	0.3	A
	クレソキシムメチル水和剤(ストロビードライフロアブル)	3,000	0.8	A
	有機銅水和剤(キノンドーフロアブル)	1,000	2.5	B
	キャプタン・ホセチル水和剤(アリエッティC水和剤)	800	3.3	C
	キャプタン水和剤(オーソサイド水和剤80)	800	3.3	C
殺虫剤	ジノテフラン水溶剤(アルバリン顆粒水溶剤)	2,000	0.5	A
	クロラントラニプロール水和剤(サムコルフロアブル10)	5,000	0.5	A
	シベルメトリン水和剤(イカズチWDG)	1,500	1.5	B
	フルベンジアミド水和剤(フェニックスフロアブル)	4,000	1.8	B
	アラニカルブ水和剤(オリオン水和剤40)	1,000	2.3	B
	シベルメトリン水和剤(アグロスリン水和剤)	2,000	3.3	C
殺ダニ剤	ミルバメクチン乳剤(コロマイト乳剤)	1,500	0	A
	アシノナビル水和剤(ダニオーテフロアブル)	2,000	0	A
	ビフェナゼート水和剤(マイトコーネフロアブル)	1,500	0.5	A
	ビフルブミド水和剤(ダニコングフロアブル)	2,000	0.8	A
	スピロメシフェン水和剤(ダニゲッターフロアブル)	2,000	1.0	A
	シエノピラフェン水和剤(スターマイトフロアブル)	2,000	1.0	A
対照	水道水		0	A

^{a)}赤道部を境界としてこうあ側とていあ側のそれぞれについて指数で評価し、その平均を各果実の評価とした。調査果数は2果/区。
指数…0:薬斑無し、1:わずかな薬斑が認められる、2:軽度の薬斑が認められる、3:中程度の薬斑が認められる、4:重度の薬斑が認められる。

薬斑汚れ(I) = (こうあ側の指数 + ていあ側の指数) / 2

^{b)}薬斑汚れの平均値 = I の合計 / 調査果数

^{c)}A:1以下、B:1を上回る～3以下、C:3を上回る

3 利用上の留意点

(1) 処理は露地ほ場において、降雨の影響が無い条件下で行った。

(2) 降雨条件や果実の状態によって、汚れの程度は変化する。

4 試験担当者

環境研究室 研 究 員 山田 高之
環境研究室 研 究 員 古井 佑樹[※]
[※]現 鳥取農業改良普及所
環境研究室 室 長 北山 淑一